

医療機関からの診察予約について

診療依頼申込書に必要事項をご記入の上、FAXで送信してください。
※一部診療科においては事前に紹介状のFAXを頂く場合もございますのでご了承ください。

医療機関からの検査予約について

北野病院では、地域の医療機関から各種検査の直接予約をお受けしております。
※患者さんからの直接予約はお受けしておりません。
検査結果は、ご依頼いただいた医療機関宛に郵送いたします。
ご依頼元医療機関にて、患者さんへ結果のご説明・ご報告をお願い致します。

各種お申し込みの詳細につきましては、
当院ホームページまたはQRコードを読み取りいただきご参照ください。
※診療依頼申込書はホームページよりダウンロードいただけますようお願いいたします。



※QRコードは
(株)デンソーウェーブの
登録商標です。

当院ホームページ https://www.kitano-hp.or.jp/section/local/shinryo_y

お問い合わせ先

北野病院 地域医療サービスセンター TEL 06-6131-2955(直通) / FAX 06-6312-8620(直通)

【受付時間】月曜日～金曜日 8:45～19:00
土曜日* 8:45～14:45 ※なお、第2・第4土曜日・日曜日・祝日及び年末年始は予約受付を行っておりません。
※2023年4月1日より土曜日は休診日となります。



公益財団法人田附興風会
医学研究所北野病院

〒530-8480
大阪市北区扇町2-4-20

<https://www.kitano-hp.or.jp/>



JRをご利用の方

環状線天満駅から扇町公園内を通って徒歩約7～8分

地下鉄をご利用の方

堺筋線扇町駅・谷町線中崎町駅から徒歩約5分

自動車をご利用の方

- 阪神高速守口線の扇町で降りて1つ目の信号を左折、次の信号を右折後直進300m。
- 新御堂筋線は茶屋町で降り、堂山町交差点を左へ、中崎交差点を右へ直進し300m。

※自動車でご来院の方へ
病院に駐車場がありますので、ご利用くださいますようお願いいたします。

医学研究所北野病院の地域連携誌「きたの」

KITANO

Vol.003

2023.3



TOPICKS

特集

理事長・病院長 就任あいさつ

全国屈指の微小血管減圧術実績

ふるえに対する最新の「切らない手術」

地域の先生方との役割分担 と連携が不可欠です

このたび、公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院の理事長に就任いたしました。

田附興風会は、田附政次郎氏が医学に関する総合研究に資することを目的に、京都帝国大学(現 京都大学)医学部に提供されたご寄付により1925年に設立され、1928年に医学研究所北野病院が開設されました。その後、医学研究所北野病院は、先人の努力により幾多の困難を乗り越えながら、最新かつ最良の医療を地域の皆様に提供し続けてまいりました。

田附興風会設立から間もなく100周年を迎えようとしている現在、医学研究所北野病院は、これからも、患者さんの立場に立った医療を提供し、地域の皆様の命を守り、地域の皆様に愛される病院であり続けたいと願っています。

そのためには、患者さんが安心して満足できる治療が受けられるように、安全で最新最良医療を提供するとともに、地域の診療所の先生方との役割分担と連携が不可欠であると考えています。これからも、地域の先生方とのさらなる連携を推し進めるべく、先生方や患者さんとできる限りの情報共有を行い、ご要望が届くような病院を目指して、職員一同、努力してまいりたいと思いますので、引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

公益財団法人田附興風会
医学研究所北野病院

理事長 稲垣 暢也 (いながき のぶや)

救急患者さんのスムーズな 受入れを目指します

このたび、2022年10月1日付で公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院の病院長に就任いたしました。

北野病院は開設以来、約100年にわたり地域にしっかりとした基盤を持つ大阪の中核病院として発展してまいりました。その発足の経緯と理念に沿って、北野病院の大切な使命は最高の医療を提供し地域の方々の健康を守ることと考えております。そのため病院機能のさらなる充実を図る目的で、吉村前病院長の計画を引き継ぎ、集中治療室(ICU)の拡充、日帰り手術室の新設、地域医療サービスセンターの移転、拡充等の本館のリノベーションを実施し、さらに今後ハイブリッド手術室の新設を含む、手術室の拡充を行う予定であります。これらの改修により患者さんの利便性、快適性、安全性が大きく向上するものと期待しております。

診療面では最新の専門性の高い診療に加えて、紹介患者さん、救急患者さんの全例受け入れを中核病院の責務と考え、病院をあげて取り組んでおります。しかしながら、新型コロナウイルス感染の大規模な流行の中、病院機能が大幅に低下し、地域の医療機関の先生方や地域の方々にご迷惑をおかけし、大変心苦しく感じております。今後職員一同力を合わせて、皆様のご期待に沿えるよう努力してまいりますので、ご理解、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

公益財団法人田附興風会
医学研究所北野病院

病院長 秦 大資 (はた だいすけ)



片側顔面けいれん、三叉神経痛、舌咽神経痛 全国屈指の治療実績

北野病院脳神経外科は1962年の開設以来、脳腫瘍や脳卒中・脳動脈瘤などの脳血管障害から脊椎・脊髄疾患さらに機能的疾患まで様々な脳・脊髄・神経疾患の外科治療に取り組んでいます。特に「片側顔面けいれん」、「三叉神経痛」、「舌咽神経痛」に対する「微小血管減圧術」の件数は国内でも有数で、主任部長の戸田は日本脳神経減圧術学会役員です。今回は当院の「微小血管減圧術」の取り組みをご紹介します。

「片側顔面けいれん」は顔の片側の引きつるようなけいれんで、目の周りのけいれんが徐々に広がり頬や口角もひきつります。また耳鳴りや頭痛を伴うこともあります。人前で話すのが困るなど日常生活にも影響を与えます。原因の多くは、脳の血管による顔面神経の圧迫で、MRIで診断します。治療薬がないので、ボツリヌス毒素を注射する「ボツリヌス治療(ボトックス)」か「微小血管減圧術」という手術で治療します。圧迫血管が太い場合もありますので「脳神経減圧術」とも呼ばれます。手術の効果は術後速やかに現れる場合から、半年以上経って徐々に現れる場合、また手術直後

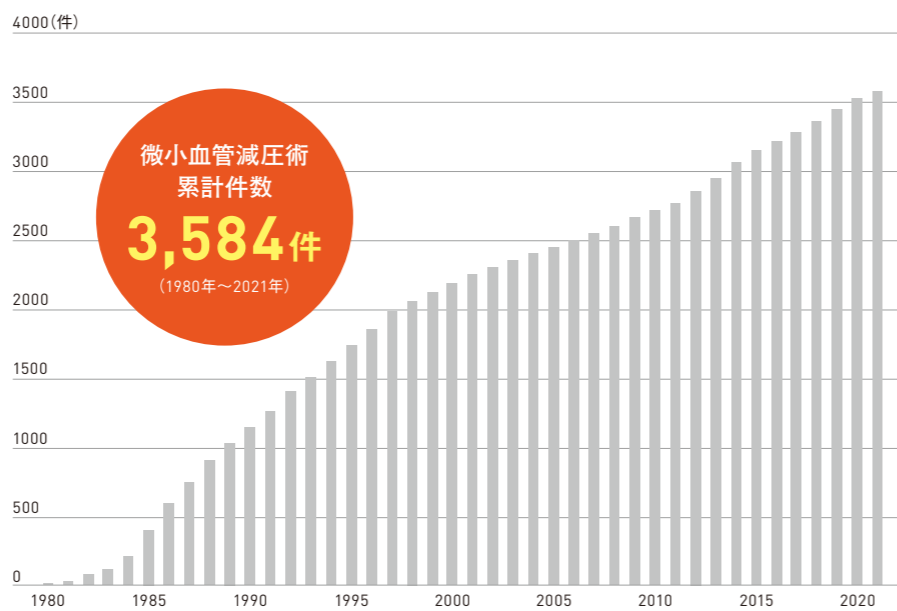
に消失したけいれんが数日で現れその後徐々に軽減する経過もよく見られます。総じて長期間での術後治癒率は高く、当院では聴力障害などの合併症を防ぎ、再発を低減する工夫をしています。

「三叉神経痛」は、食事や洗顔などの軽い刺激で顔の片側に誘発される非常に強い痛みで、「舌咽神経痛」は、水分や食事の飲み込みなどで誘発される喉の激痛です。「三叉神経痛」と「舌咽神経痛」の原因も、脳の血管によるそれぞれの神経の圧迫です。治療はカルバマゼピン(テグレトール)などの内服薬、神経ブロック、放射線治療、そして「微小血管減圧術」です。術後治癒率は高く、内服薬を中止できますので、当院では手術治療を行っています。手術の効果は術後早期から現れます。ただし、静脈が原因血管である場合には効果発現が緩徐な場合もあります。

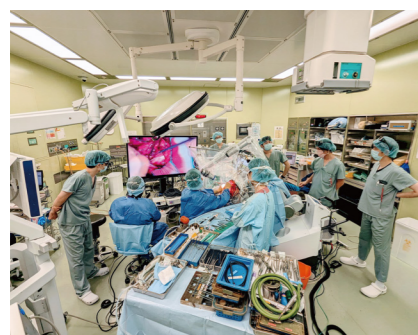


従来の顕微鏡手術と異なり偏光ガラスを用いて3Dモニターを見ながら手術を行っています。

当院では「微小血管減圧術」を1年間に70名以上の方に行っています。治療実績は国内有数で、長年のけいれんや痛みから解放されますと非常に喜ばれます。最近は高齢の方の手術も増えています。当院では2020年から高精度3D画像の「外視鏡」仰臥位手術を導入しています。従来の側臥位手術と異なり、術中の身体負担が減り侵襲低減に貢献しています。



医学研究所北野病院 微小血管減圧術件数(三叉神経痛・舌咽神経痛・片側顔面けいれん)累計グラフ



外視鏡を用いた脳神経外科手術



手のふるえ(本態性振戦)・パーキンソン病に対する 最新の「切らない手術」について

動作時に手がふるえる本態性振戦は60歳以上の方によく見られ、日常生活や仕事に支障をきたす程度にまでなると手術を考慮します。最近「集束超音波療法(FUS)」と呼ばれる新しい手術が現れ当院でも行っています。超音波の装置を頭に固定して、MRIで正確に位置を確認しながら、脳の一点に集めた超音波の温熱効果で「ふるえ」

の原因となる神経の回路を抑える治療です。従来の脳深部刺激療法などでは切開が必要でしたが、このFUSでは切開操作が不要ですので、出血や感染の心配がありません。写真のように治療前後で劇的な治療効果を得た患者さんも多数おられます。

さらにこのFUSはパーキンソン病による手や足のふるえ(安静時振戦)、また筋強剛や無動、ジスキネジアにも効果があります。脳深部刺激療法とは異なり、年齢の上限はありませんので、MRI室に入り意思疎通の図れる方であればどうぞ検討ください。なお頭蓋骨の性状により超音波が通過できない場合があるので、頭部CT検査で頭蓋骨密度や厚さを測定してFUSが可能かを判断します。なおFUSでは超音波を頭皮・頭蓋骨を介して頭蓋内



治療中にMRI室内でふるえの評価を行います



FUSによる本態性振戦の治療 MRIと超音波を用いた専用治療機器

に届けるため、髪の毛を全部剃っていただく必要があります。また現状では、左右どちらかの片側1回のみが公的医療保険で認められています。入院期間は約1週間です。当院では「ふるえ・パーキンソン病外来」を開設しています。

上記の症状を認める患者様がおられましたら是非ご紹介ください。



第4回きたのパートナーズを終えて

2022年11月19日(土)、第4回きたのパートナーズクラブが開催されました。「私たちが考える これからの地域連携に求められること～早期診断 早期治療を連携のチカラで～」をテーマに、今回は救急科主任部長・平川医師が「自然災害に備えて地域で何ができるのか～防災民度を高めよう～」、不整脈科主任部長・春名医師が「不整脈科の役割～これまで、現在、そして、今後～」を、それぞれ講演させていただきました。また、2022年10月1日付で当法人理事長に就任した稲垣医師が、「超高齢社会における

これからの糖尿病治療」を特別講演いたしました。今回は地域の先生方およそ80名にご参加いただき、当院医師や地域医療サービスセンタースタッフと合わせておよそ110名規模の会とすることができました。コロナ禍で地域の先生方と当院医師が直接お話できる機会は少なくなりましたが、講演後に設けさせていただいた懇談の場は予定の時間を超えるほど盛況で、改めてこのような機会の必要性を再確認させていただきました。

院内リニューアル情報

RENEWAL

地域医療サービスセンター移転

本館1階はこれまで初診、計算・会計、文書、入院の各窓口が1ヶ所に集中して時間帯によっては大変な混雑で患者さんにご迷惑をおかけしていました。そのため、混雑緩和を目的として本館1階を外来エリアと入院エリアに分け、2022年10月より地域医療サービスセンターや入院受付など入院エリアを東側に移転しました。また面談室を拡充して入院前談や医療相談にも幅広く対応できるようになりました。



デイサージャリー開設

2023年1月4日より本館3階に新しく手術室(デイ・サージャリー室:DS)をオープンしました。まずは眼科手術での運用から始め、面積はもとの眼科手術室の約2倍で2室から構成されており、眼科手術は局所麻酔、全身麻酔、日帰りから入院まですべてDSで行います。Head up surgery system、眼内内視鏡、イメージガイドシステムVERION、術中屈折解析装置ORAなど最新の機器を装備し、白内障、緑内障、網膜硝子体疾患と幅広い疾患に対して週3日手術を行っています。新たな環境でなお一層精進してまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

2023年4月1日より
土曜日は休診日に

当院では第1・3・5土曜日は開院日として通常の外来診療を行ってまいりましたが、**2023年4月1日より完全休週二日制へ移行し、土曜日は原則として休診日とさせていただきます**(小児外科外来、漏斗胸外来を除く)。これに伴って平日の各受付窓口の対応時間を若干延長する予定としております(詳細は当院ホームページにて今後掲載予定)。なお、地域医療サービスセンターの電話受付は19:00まで変更はございません。地域の先生方にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

編集後記

2号続けて院内のリニューアル情報をお届けしました。数年に渡って続いてきた本館リノベーション事業も大詰めを迎え、残すところは手術室の拡張のみとなりました。またそれと並行して、現在外来中待合に京都芸術大学の学生さんによるホスピタルアートを施工していま

EDITOR'S NOTE

す。3月中には完成し、少し味気ない待合室にちょっとした彩りを添えてくれることを期待しています。

地域医療サービスセンター 広報室 主任 今口 大和